

第3学年進路通信 ⑤

H27.10.6

私大を目指す生徒諸君へ

チェックリスト

私大全般について

- (1) いくつ受験するか、おおよそ決まっている。
- (2) 1 受験あたりの受験料をおおよそ知っている。
- (3) 群馬県内か県外か、大学の範囲が決まっている。
- (4) 群馬県外での受験の場合、交通手段が決まっている。
- (5) 連続受験は2日までに抑える方がよいことを知っている。
- (6) 大学・学部・学科の新設、増設、改組、再編情報を調べてある。
- (7) キャンパスの移転情報を調べてある。
- (8) 入試変更点を調べてある。
(1) (2) (3) については、言うまでもなく、御両親としっかりと話しあっておくべきことです。

志望大学の一般入試について

- (1) 願書の取り寄せ方法を知っている。
- (2) 出願期間を知っている。
- (3) 受験日を知っている。
- (4) 受験会場を知っている。
- (5) 合格発表日を知っている。
- (6) 入学手続締切日を知っている。
- (7) 受験型をすべて知っている。
- (8) 配点を知っている。
- (9) 偏差値を知っている。
- (10) 赤本などで最近3年分の過去問を解いた。
- (11) キャンパスを見学した。
- (12) 最寄りの駅（路線）を知っている。
- (1) インターネット出願が増えつつあります。
- (2) 第3学期が始まるとすぐに、学級担任から調査書を受け取り、出願する必要があります。
- (3) 受験日選択制の場合もあります。
- (4) 本部キャンパス会場にまで出向かなくても、**高崎などで受験することが可能な大学もあります。**
- (5) (6) 合格発表日と入学手続締切日をしっかり把握することによって、入学金等の**無駄な出費を抑えることができます。**受験スケジュールを組む際に重要なポイントの一つになります。



(7) (8) 私大では多様な受験型を設定していることが多い。その中から、自分に最も有利と思われるものを探そう。例えば、大学のレベルによって、英語の配点が変わったり、国語が現代文のみに変わったりすることに注意したい。

(9) 合格水準の偏差値を知り、**挑戦校・実力相応校・合格安全校の組合せ**を考えよう。

(10) 偏差値はあくまでも受験校決定の際の尺度の一つにすぎません。**合格安全校であっても過去問対策は必要**です。逆も言えます。挑戦校であっても過去問対策を念入りにし、しかもそれが自分に合った出題傾向であれば、得点率67%をクリアし合格できるのです。

各大学・学部によって試験の傾向は異なるということを知っておきましょう。加えて言えば、センター試験の出題傾向もまたそれとは異なります。

志望大学のセンター利用入試について

- (1) 出願期間を知っている。
- (2) 合格発表日を知っている。
- (3) 手続締切日を知っている。
- (4) 合格水準を知っている。
- (5) センター試験と一般入試とは出題傾向が異なることを知っている。
- (1) センター試験の実施前に出願するのか、実施後に
出願するのか、この差は大きい。当然のことながら、**多くの場合は「事前出願」**です。しかし、群馬県内の私大は「事後出願」がほとんどです。
「事後出願」は自己採点結果を見て合否がほぼ判っている段階なので、合格可能性のある受験生しか出願しません。したがって、倍率はあまり高くないですが合格レベルは高くなります。
- (2) (3) 合格発表日は、同じ大学の一般入試の合格発表日より遅く設定されています。(あるいは同日)
大学側からすれば、センター利用入試だけでなく、一般入試にも出願させて受験料を稼ぎたいので、当然、そのような設定となります。したがって、**よほどの合格安全校であればよいですが、そうでなければ、センター利用入試を受験スケジュールに組み込むのは無意味**です。
- (4) センター利用入試は、受験料も安く、実際に受験に出向かずに済み手間もかからない便利な入試ではありますが、定員枠は極めて少ないため、**一般入試よりも合格水準がかなり高くなります。**したがって、充分、注意した上で出願すべきです。